

円急騰について

今回の東北地方太平洋沖地震において、被災された皆さまに謹んでお見舞い申し上げます。一日も早く復興されますことを、心よりお祈り申し上げます。

<円が急騰>

3月17日の東京時間6時過ぎに円が急騰しました。対米ドルで一時76円台と約16年振りに過去最高値を更新しました。米ドルだけでなく各通貨に対して円は急騰しています。対豪ドルでは一時74円台、対ユーロでは一時106円台、対ブラジルリアルでは一時45円台、等何れも大幅に円高が進みました。

日本の株式市場が16日は一旦切り返したものの、震災前と比較すると大幅に下落する中、リスク回避的な動きが強まっている状況です。金利が低い通貨である円を売って金利が高い通貨を買い、その金利差を受け取ることを目的とした取引(いわゆるキャリー取引)に一部解消(高金利通貨売り円買い)の動きが出ていると思われます。

また、日本の保険会社などが、投資している外貨資産を売却して円を調達するのではないかという思惑も出ています。さらに、ヘッジファンド等の投機的な資金が円買いを進めており、東京の早朝の取引参加者が少ない時間帯を狙ったという見方も出ています。東京時間9時過ぎには79円台に戻した動きとなっています。

<今後の見通し>

足元では日本の原子力発電所の問題が、先行きの不透明感を強めている状況です。リスク回避的な動きがさらに強まれば、一段の円高が進む可能性はあります。しかしながらリーマンショックの時のように、今回の日本に震災が世界的な景気後退を引き起こす可能性は低いと考えています。また金利が低い円が今後一方的に上昇する可能性も低いと思われる。足元の不透明感が払拭され市場が落ち着きを取り戻せば、円安方向に反転するものと思われる。



出所: Bloomberg

■当資料は情報提供を目的として大和住銀投信投資顧問が作成したものであり、特定の投資信託・生命保険・株式・債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。
 ■当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料に記載されている今後の見通し・コメントは、作成日現在のものであり、事前の予告なしに将来変更される場合があります。■当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。■当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。



大和住銀投信投資顧問

Daiwa SB Investments

大和住銀投信投資顧問株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第353号
 加入協会 (社)投資信託協会、(社)日本証券投資顧問業協会

お取引にあたっての手数料等およびリスクについて

手数料等およびリスクについて

- 株式等の売買等にあたっては、「ダイワ・コンサルティング」コースの店舗（支店担当者）経由で国内委託取引を行う場合、約定代金に対して最大 1.20750%（但し、最低 2,625 円）の委託手数料（税込）が必要となります。また、外国株式等の外国取引にあたっては、現地諸費用等を別途いただくことがあります。
- 株式等の売買等にあたっては、価格等の変動による損失が生じるおそれがあります。また、外国株式等の売買等にあたっては価格変動のほかに為替相場の変動等による損失が生じるおそれがあります。
- 信用取引を行うにあたっては、売買代金の 30%以上で、かつ 30 万円以上の委託保証金が事前に必要です。信用取引は、少額の委託保証金で多額の取引を行うことができることから、損失の額が差し入れた委託保証金の額を上回るおそれがあります。
- 債券を当社との相対取引によりお買付けいただく場合は、購入対価のみお支払いいただきます。円貨建て債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、損失を生じるおそれがあります。外貨建て債券は、金利水準の変動に加え、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。
- 投資信託をお取引していただく際に、銘柄ごとに設定された販売手数料および信託報酬等の諸経費、等をご負担いただきます。また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

- 取引コースや商品毎に手数料等およびリスクは異なりますので、上場有価証券等書面、契約締結前交付書面、目論見書、等をよくお読みください。
- 外国株式の銘柄には、我が国の金融商品取引法に基づく企業内容の開示が行われていないものもあります。

商号等 : 大和証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第108号

加入協会：日本証券業協会、社団法人 日本証券投資顧問業協会、社団法人 金融先物取引業協会